

イマヌエル教報

2017. 2

1947年7月1日第三種郵便物認可 2017年2月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.847

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

神ご自身の目ざすところへ

世界宣教局長 梅田登志枝



「あなたの行かれる所へ私も行き、あなたの住まれる所に私も住みます。」（ルツ記一・16）

各教会は教会総会を超え、今年度の計画のもとに活動が開始されました。教会通常の働きに加え、会堂建設やその返済が目標の一つに掲げられた教会、特別なプログラムを企画した教会もあるでしょう。いづれにしても教会は、どなたかの救いのために、またその建て上げのために祈り、工夫を凝らし、労します。と同時に教会やクリスチャンの存在の意義や目的、またどこを指しているのかを再確認することを忘れてはならないでしょう。

冒頭の聖句は異邦人の女性ルツが、夫亡き後、義母ナオミの故郷ベツレヘムに、自分も一緒に付いて行きたいと告白した言葉です。この決意はやがて、キリストの系図に、ともに名を遺すボアズの畑に「はからずも」導くことになりました。

私たちも罪の世界、異教の世界から恵みによって救われ、キリストへの信仰を告白し、神さまに従いゆくことを決意して歩んでいられるお互い입니다。またその集合体である教会も教団も、「あなたの行かれる所へ私も」と絶えず、神さまの示す方向、ヴィジョンを確認しながら、意識的に歩み従うことが大切でしょう。

神さまの行かれる方向に、主とともに、それずに、また先走りしたり、遅れたりせずに歩みたいものです。恵みによって「はからずも」導かれたイマヌエルという畑、それは聖書のホーリネスと世界を視野に入れ

た宣教に取り組む群れです。

教団創設者、葛田二雄師が第二十次年会に「国外宣教小論」の中で次のように語ったことが記録されています。「国外宣教の実践は真に健全な教会の建設のために、継続的に成長し続ける教会の建設のために、決して常緑を保つ祝福と繁栄に溢れる教会の建設のためには、不可欠の要件のように肯かされる。」「その実践と敢行は、現存教会の現有する能力や財力にはなく、常に現存教会の「信仰」に俟つものである。……『あるからやる』のでなく、また『できるからやる』でもなく、『しなければならぬからやる』のである。」「また『するからできるようになり、もつ者とされる』のである。」（『葛田二雄全集』第四巻438頁）。

個々の信仰生活も全イマヌエル教会の活動も、示された神さまの方向に向けて主とともに前進できたならばなんと幸いです。

何よりも、神さまのご計画に従い続け、身代わりの十字架にかけられたキリストの御心は、世界に向かっての福音宣教の実践、敢行でした。

「全世界に出ていき、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ一六・15）これは弟子たち、また私たちへのご命令でもあります。

新しい年度の個人の、また教会、教団の「聖と宣」の信仰の歩みが、神さまと同じ方向に向かってしっかりと進められていくならば、主は必ず、祝福を与えてくださることでしょう。

目次

- 神ご自身の目ざすところへ……梅田登志枝……1
- 教会総会を越えて、神学院リトリート……2
- 72次年会とは、関東4教区合同新年聖会……3
- 海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
- 関東南ブロック近況、神学院後援会設立……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

2017年がスタートしました……

教会総会を越えて 「愛」こそ教会のしるし

国内教会局長 内山 勝

ものでありますように。

*

教会が存在する目的は、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと」(ヨハネ一五・12)だと、イエスさまが教えておられます。

この目的を達成しようとする教会は、この世のものではないために、絶えずサタンから執拗な攻撃を受けることとなります。ですから、教会を構成する私たちが、主の愛をもって互いに愛し合うことは、決して簡単ではないのです。

「こうして教会は、ユダヤ、ギリヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。」(使徒九・31)

*

教会総会を越え、各教会が主からのビジョンのもと、新しい歩みを開始されたことでしょう。使徒の働きに見られたような前進が、私たちにも与えられますように。

もしかすると、私たちは目に見える変化、たとえば、このみことばの「信者の数がふえて行った」という部分に魅力を感じるかもしれません。もちろん、受洗者が多く与えられるとか、新会堂が完成するとういう華々しいみわざを見るのは喜ばしいことであり、確かに、神さまの祝福のしるしだと思います。しかし、それらはどこまでも付随的に与えられる恵みであって、

教会の究極的な目的ではありません。私たちのゴール設定が正しい

「愛」こそが、「教会」であることとの証しだということを、決して忘れないようにしましょう。

BTCリトリート「冬の聖会」

「聖霊神学院」での体験 神の御声を聴く機会に



秋田教会 神谷光一

コ一〇章より、主が弟子たちの中で前に出ようとするヤコブとヨハネの本音に耳を傾け、またヨハネ四四、五章より、サマリヤの女性、ベテスタの池に臥せていた人を目を留められた姿から語られ、それぞれがたどった人生の声に耳を傾けて下さる主のみに、心を注ぎ出して祈ることができました。

第二夜は「聞こえていませんか」と題して、I列王記一九章よりエリシャの召命の箇所から、国内教会局長の内山勝先生がお話しください、ご自身の献身に至る証しも交えつつ、エリシャを通して主のみ旨を悟ったエリシャが、それまで生活の糧としてきた用具と牛を焼いて従う姿勢に、召しを頂いた者の取るべき態度が明確に示され、チャレンジが与えられました。

また神学院ならではの体験授業では、内山先生より、分かち合いの恵みを通して、聖書に聴く姿勢と共に、耳を傾けて他に聴こうとする大切さが語られ、午後には参加者のうちの4名の先生方から、神学生、伝道者としての経験をインタビュー形式で何うとかが持たれました。年齢も教団も異なる器方の中に、たどった歩みはそれぞれでも、同じ底流があることを感じ、また召しの厳粛さと幸いを一同が受け止める機会となりました。

神学生によるチャペル、証しも、召命、学院での恵みが語られ、召された主のみわざが、その始まりから、学び、気づき、説教というかたちでそれぞれ紹介されました。静かな朝のみことばと祈りのひと時に、また集会の合間にもたれる自由な語らいの中にも、私たちの人生を創造されたお方のみことばを知り、そこに応答する幸いがそこかしこで証しされ、密度の濃いこの期間でした。多くの方々の隠れた祈りと奉仕に支えられてもたれる営みの意義が、深く頷かされるひと時となりました。

今回で4回目となるBTCリトリート「冬の聖会」は、例年通り年末の12月28日から30日の日程で行われました。将来について、また献身、職業選択について思いを巡らすためにという方、神学院という環境を体験するため、また年末はここに来ると決めているなど、目的はさまざまですが、それぞれの思いを持ちながら、北海道から九州までの20代から60代にわたる年齢層の方々、かつてここで学ばれた同窓の先生方、また、在籍する神学生の兄弟も含め40名近い参加がありました。



一般公開された2回の夜の聖会には、聖会のみ参加者もおられ、また、こうした機会を通して、普段は足を運ぶことのない「神学院」の空気に触れ、かつて、そこで養われた思いを新たにされるといいます。先生方もおられます。

第一夜のメッセージは院長の河村俊彦先生で、「マイ・ストーリーを聴いてくださる」と題してマル

2018年総会期に備えて

集中と深化の年會に

今年年會の目指すところは 課題克服へ協働を

教團代表 藤本 満

決して不安をおおっているのはありません。これまでにも、信徒伝道者を育成し、兼牧の労を複数の先生方にお願ひし、役員リーダー研修会を開催し、教團としてこのような課題に対応できる実力は培ってきたと私は考えています。それでも私たちが想像しているよりも大きな波がやってくるかもしれない。その波を乗り切る地域教会の信仰、決意、方策が主体的に求められる時は、もうそこまで来ています。

3月の年會は、2018年の総会を前にしています。

今回教團の運営委員会では、「2018年総会期(3年)問題」というタイトルをつけ、集中的、具体的に課題と取り組む姿勢を明らかにすることにしました。

多くの牧師が引退するであろう次期総会期に地域教会、教團はどのような課題に直面するのでしょうか。きっと突然の転任もあるかもしれません。定住する牧師なしで教会運営をすることも考えられます。私たちはこのような問題を、これまで何度も経験しました。現に、定住する牧師のいない、兼牧によって支えられている教会はすでに複数あります。

しかし、もし同時に二つ三つの教会がそのような状況を毎年のように迎えるとしたら、またもし長年牧会され、一つの伝統を築いてきた教会の牧師が突然変わったら、どのようなのでしょう。

*

関東4教区合同新年聖会

郷家一二三先生を迎えて

復活と十字架が生み出す 教会と私

越谷教会 川村和臣

今年の関東四教区による新年聖会は、1月9日(月・祝)、日本ホーリネス教團の郷家一二三先生をお迎えし、中目黒教会を会場に行われました。テーマは「復活と十字架が生み出す教会と私」。

聖会ではマルコ一四章27、42節から「ゲッセマネの祈りを主イエスと共に」と題し、

(1)「破れ口に働く力」
復活された主は弟子たちや、私たちにも現れてくださり、今も私たちの中におられる。その主は神の裁きという「破れ口」立ってくださった。聖書が示す破れ口は人間の罪によるもの。人にはどうすることもできない。また悪魔の力も働いている。この破れ口に立てる方は主イエスのみである。主は父のみこころに沿って神から裁かれる経験をなされた。

(2)「破れ口での祈り」
その破れ口で主は祈られた。この祈りは「アバ(お父さん)とい

う祈り」であり、心から注ぎだす祈りであった。また「父の御心にゆだねる祈り」であった。私たちもそのように正直に、またゆだねる祈りをささげたい。

(3)「破れ口に向かう主イエス」
ご自身を罪人たちの手に渡された主イエス。その中でも弟子たちを励まし「立ちなさい。さあ、行くのです」と語られた。主は弟子たちをお見捨てにはならなかった。ここに主の哀れみがある。弟子たちはこのゲッセマネの祈りを明確に覚え、心から主に感謝していた。私たちもこの年、この主に感謝して歩みたい、と語られました。

午後13時から「燃え立つ神の憐みがあるあなたを召している」と題して、主イエスは取税人マタイに従うよう声をかけられた。社会的な安定や財産をもっていたマタイであったが、主のことは心を動か

された。それは他の取税人たちに冷たいことばをかけたパリサイ人とは対照的に、神の燃え立つ哀れみの心からのおことばであった。主に用いられた人は、この主の憐みに触れている。主に用いられる条件が一つあるとすれば、主の憐みを体験していること。この主の招きにに応じて歩もう、と聖会に続いて力強く語られました。また、自分がキリストを、ではなく、自分をキリストが捉えてくださったという先生の証しも伺うことができました。

宣教会では、長年ボリビアにてご奉仕された三森邦夫、加寿子師からご挨拶と共に具体的な宣教会の報告が、真実なお証しとともになされました。

東関東教会区の有志による特別讚美、成人のお祝い、お昼の交わりなども幸いなひとときでした。出席者は聖会270名、宣教会191名でした。



国内教会局から

聖い教会を目ざして

教会総会を控えて

本コラムも聖い教会を目ざして取り組みは始めて一年が過ぎました。短い期間、足りない思索で何かの結論に辿り着いたとは思いません。むしろ取り組むべき諸課題を示して頂きました。主イエスはかつて哀れみを



乞うた盲目の男性に「わたしに何をしてほしいのか」と問われました。男性は改めて自らの抱える問題を見定めたのです。「聖い教会としてください」と求める私たちの声には立ち止まり、何をしてほしいのか、と問いかけてくださいます。その時、はっきりと応答をすることが許されたならば幸いです。この男性に対し

て主はたちどころにみわざを表し、彼の応答に対して「あなたの信仰があなたを直した」と励まされました。聖い教会を目指す私たちの切なる訴えを、何をしてほしいのかはつきりと求める声を、そして主ご自身に対する期待を、主イエスは「あなたの信仰」と仰せられて報いてくださいます(ルカ一八・42)。(葛田崇志)

■リオのキリスト像補修費集まらずに一般から寄付募集へ
ブラジル・リオデジャネイロの巨大なキリスト像は、観光名所として知られているが、ブラジル経済の低迷で維持管理のための企業の寄付金が激減し、老朽化が深刻になりかねないとして、初めて一般から寄付を募ることになった。リオデジャネイロのコロコパードの丘から街を見下ろす高さおよそ38mの巨大なキリスト像は、建設から85年、落雷を受けやすいこともあって老朽化が進んでいる。像を管理する地元のカトリック教会によると、このところのブラジル経済の低迷でこれまで像の維持費を支えてきた企業からの寄付金が激減し、年間約1億8千万円相当の維持管理費も集まらない状態という。

20世紀初頭、ロシア正教会がユリウス暦から新しいグレゴリウス暦に移行せず、新暦を採用しなかったことから、欧米などのキリスト教国に比べ13日遅く祝われる。帝政ロシアにおいて、降誕祭は極めて重要な祝祭であり、祭日



海外トピックス

■ロシア正教会の降誕祭は6日深夜に
1月6日から、7日にかけての深夜、ロシアではハリストス(キリスト)降誕祭が祝われた。

の重みとしては新年よりもはるかに上だった。ここ数年、人々は降誕祭に、ますます多く教会を訪れるようになり、この祝祭日を持つ宗教的な意味を思い出している。モスクワにあるロシア正教最大の寺院「救世主ハリストス大聖堂」での降誕祭の礼拝には、毎年5千人を超す人達が集まっている、と『スプートニク』誌。ロシアでは、降誕祭は、新年の後に迎える。多くの人たちが寺院を訪れ、洗礼を受け、イコンの前に口ウソクを灯すが、キリスト教徒とは何たるか、真の信仰とは何かについて知識がない。そこで聖職者は、たくさんの方に取り組む。説明し啓蒙し、生きる模範としてキリスト教徒としての行動を示さなくてはならない、とゲオルギイ・パルフォード神父は語る。ロシア正教会の降誕祭は、暦の違いによって、問題の所在を改めて浮き彫りにしている。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば

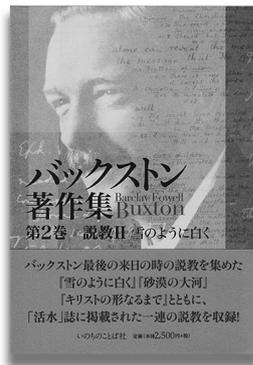


新刊書を3冊紹介します

バックストン著作集 説教II

世界がぶつかる音がする

神の底抜けの恵み



2500円(税別)のちのことは社

『バックストン著作集』説教IIは、「赤山講話」が日本宣教初期の説教であったのに対して、中島光信先生の解説によると、晩年に77歳のバックストン先生が最後に訪日された時の説教を集めたと言われています。

説教集であるとともに、きよめが何であるかを示す教理の本でもあります。ちょうど、葛田二雄先生が丸ノ内教会の聖別会で語った説教を『エプワースの流れ』などにまとめられたようにです。読んでみますと、バックストン先生の日本の信徒たち、牧師たちに対する温かな優しいまなざしが感じられます。また、みことばの説教のあり方を示しています。



13000円(税別)ヨヘル刊

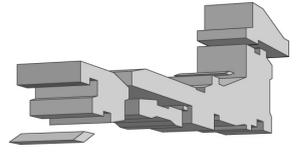
『世界がぶつかる音がする』の訳者は永井みぎわさん、日本伝道会議に出席した方はすぐに思い出されるでしょう。サーバンツの働きを紹介し、証しをされた方です。アジアの貧困にあえぐ人々の現場に入って、文字通り「サーバンツ」として働かれた証しは衝撃的でした。キリストの足跡に従う宣教の原点に触れて、自らの生き方を考え直すよう促される本です。



11000円(税別)ヨヘル刊

『神の底抜けの恵み』下巻は新書版になって『ひとりの伝道者に注がれた神のまなざし』と改題されました。日本ホーリネス教団の錦織博義先生がご自身の伝道者生涯を綴った証しの本です。ぜひ読んで頂きたいのは、牧師の生活、家庭、子育てなどがとてもよく描かれているからです。(矢木良雄)

国内教会局 スクエア



関東南ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー
葛田崇志

神奈川教区(6教会)、東京教区(11教会)、そして関東東教区(9教会)からなる南関東ブロックのために尊いお祈りをありがとうございます。昨年の秋の教区会で挙げられた課題をお伝えいたします。

神奈川教区
今年度は葦山教会が伝道サポートシステムを活用され、教区諸教会の協力のもと伝道の取り組みがなされました。4月に渡り特集はそれぞれ祝されました。12月にはホルン奏者の宮田四郎氏を迎えてのクリスマス・コンサートも開催されました。求道者も与えられ、受洗者も興された由、御名を崇める次第です。これからの前進のために引き続きお祈りをお願い致します。重責を担われる藤本代表(高津教会)のためにお祈りください。神学院教会ではホリー宣教師を迎えて英語教室、横浜教会では書道、桂町教会では信徒の方によるコンサートなど、それぞれに与えられた賜物を聖別して広く伝道と取り組んでいます。湘南中央教会では韓国出身の若いクリスチャンホ

ムを迎えておられます。主は各教会を祝福して下さっています。

東関東教区

船橋教会は今年3月の竣工を指して会堂の建築に取り組んでおられます。移行期間の間、高齢の方々が守られるようにお祈りください。林栄恵師の術後の回復のためにお祈りください。その他、高齢の先生方や健康の戦いを覚えておられる諸師方のため、また、高齢の聖徒方のみ守りのために各教会から祈りが求められています。神栖教会は今年創設40周年を迎えられます。祝福をお祈りください。松戸教会では森下辰衛氏講演会が祝されて多くの新来会者が与えられました。継続来会のために祈りください。千葉教会では子どもたちのための取り組みが盛んになされています。多くの子どもたちが教会に繋がりますように、また受け皿となるスタッフがさらに加えられますようにお祈りください。

東京教区

白鳥教会は加藤光先生を迎えて、

新たなスタートを踏み出されました。教区・近隣の諸先生方のご協力も頂いて週ごとの講壇は守られています。会堂返済の取り組みとも向き合っておりますのでお祈りください。なお、今年度は伝道サポートシステムを活用して福音宣証に取り組みます。結果をお祈りください。昨年は王子教会と深川教会が創立60周年記念の塚を建てられました。前途にますます祝福がありますようにお祈りください。富士見台教会は会堂が新しくなり、地域へますます積極的に踏み出してまいります。結果をお祈りください。また昨夏は初めての試みで深川教会と合同のCSキャンプを致しました。新たな取り組みに主のささなる導きをお祈りください。立川教会は隣接地取得の取り組みを継続されています。主の導きをお祈りください。山梨は甲府教会の岡先生ご夫妻、皷沢教会の加藤初穂先生方の冬季のみ守りをお祈りください。

なお、東京・神奈川教区共催で夏期には林間聖会が開かれ、梅田登志枝先生を講師にお迎えしました。1月の成人の日に郷家二三先生をお招きして新年聖会が中目黒教会で開かれました。東京教区は寺村秀嗣先生、神奈川教区は小川宣嗣先生、東関東教区は梅田昇先生が主事を担っております。これらの3教区には本部や教団を越えた働きにあつて責任や重荷を担ってられる先生方が多数おられます。お祈りください。

聖宣神学院から…… 後援会設立総会 年会時に行います

聖宣神学院 河村從彦

後援会構想について教団の先生方と話し合いを始めたのがほぼ1年前です。以来、昨年6月に50年の歴史を持つ他の神学校後援会へのインタビュー、7月に発起人会の9月に活動の主体となる推進委員会の第1回目の会合を行いました。また、全国教会に世話人をお願いしました。世話人とは、神学院や後援会からの情報を教会の皆さまにお伝えいただいたり、教会からのご要望をフィードバックしていただく連絡係です。これによって信徒のネットワークを作ります。この働きの最大の特徴は、信徒が主体的に企画・運営を担ってくださる信徒活動であることです。神学院は祈りと実務的な面で精一杯お支えして行きます。

「とにキャン」に向けて
スタッフ・トレーニング
・キャンプを開催
人材育成に力を
中高生キャンプ委員会
細田恒太郎

「とにキャン」は今年で10回目を迎えるようになっています。感謝なことに毎年、素晴らしい奉仕者が参加して下さり、キャンプを支援して下さいました。良いキャンプを継続させていくためには、神と共に働くことのできる人材が不可欠です。中高生キャンプ委員会では、昨年「スタッフ・トレーニング・キャンプ」を開催し、人材育成に力を注いでいますが、今年も第2回目を3月19日(日)20日(月)の2日間、聖宣神学院を会場に持ちます。カリキュラムは全部で6つあり、昨年は「とにキャンの目的」「神の奉仕者とは(総論)」「グループリーダーの心得(各論1)」が持たれました。今年前半のクラスと平行する形で「ミュージック・グラウンドの心得(各論2)」「ケース・スタディー」「個人伝道」の後半3つのクラスが追加されます。全クラス修了者には、終了証とオリジナルグッズを進呈する予定です。昨年はクラスの間、バーベキューをしたり、夜は近くの温泉に出かけたりと楽しい時も持たれました。皆様のご参加をお待ちしています。

巻頭言

異邦人宣教の始まり学ぶ



世界宣教局
梅田 昇

教会総会を越え、第72次年会に向かう年度の締めくくりの中にあ
ります。厳しい時代であっても、
信仰による希望を失うことなく、
新しい年度に向かいます。



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

発展の記録です。時代が変化して
も、教会建設に従事する者が学ぶ
べき多くの教訓があります。エル
サレムにおけるユダヤ人伝道から
始まり、異邦人に福音が伝えられ
福音はローマ帝国の都まで到達す
るのです。アンテオケ教会から、
異邦人宣教、世界宣教が開始され
ました。私たちはアンテオケ教会
からどんな信仰の教訓を学ぶこと
ができるでしょうか。

第一に、教会に豊かな人材が
あったということです。ステパノ
に対する迫害で散らされた人々が
アンテオケに下つてきて、多くの
人々が主に立ち返ったのです。ア
ンテオケから、信仰者はキリスト
者と呼ばれるようになり、いろい
ろな人材がいたのです。信仰者を
迫害していたサウロは魅りのキリ
ストに出会い、バルナバの招きで
アンテオケにやって来ていたので
す。

第二に、教会に、異邦人宣教に
対する理解があったということです
です。彼らが主を礼拝している時に
聖霊が「バルナバとサウロを私が
召した任務につかせなさい」と
語ったのです。アンテオケ教会は
ユダヤ人会衆だけでなく、イン
ターナショナルな教会でした。で
すから、彼らは異邦人宣教に対
して深い理解があり、異邦人宣教の
ためバルナバとサウロを派遣する
ことに同意したのです。

第三に、教会に異邦人宣教に対
する重荷と情熱があったというこ
とです。彼らは、断食と祈りでバ
ルナバとサウロを送り出しました
器を送り出すことで宣教の使命が
終わるわけではありません。アン
テオケの教会は、祈り、支援を続
けたに違いありません。

筆者たちは29年前、成田空港で
当時の国外局長ご夫妻、関係者の
方々の祈りとお見送りを頂いて、
機上の人となりました。幼児を伴
い、言語も文化も全く違う宣教地
に向かう心に不安がありました
が、同行くださる主と背後の祈り
の支援を受け、宣教に従事するこ
とができました。パウロたちも同
じで、アンテオケ教会の理解、祈
り、支援があったことの故に宣教
に従事し続けることができたので
す。アンテオケ教会の模範になら
ない、ヴィジョンをもって祈り、宣
教を推進していきましょう。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2017年1月7日

「私のはかりごとは成就し、私
の望むことを全て成し遂げる」
(イザヤ四六章10節)

遅ればせながら、昨年許された
第2回目宣教旅行、11月〜12月に
かけての1か月の滞在と目的の達
成のため、お祈り頂き心から感謝
申し上げます。

米国の支援グループが計画され
た伝道者セミナーに合わせて、今
後の働きに関わる相談目的で出か
けました。しかしチケット購入後、
突然中心のD兄の奥様が肺癌で
手術というニュースが入り、セミ
ナー延期、したがって相談会も延
期と神様のご計画は正に人の思い
と異なる方向に動きました。この
度は長年のお祈りの答えを得て、
全日空から直行便が飛ぶことにな
り、金額も時間も従来の半分で行
けることになり、摂理の中に導き
給う主を信頼して出発しました。

カンボジアの地においてスカイ
プを通してヴァンディ先生も一緒

にD兄と私の三者会議が許され、
今回の旅の目的が果たせました。
しかも、さらに驚くべきタイム
リーな出来事がありました。それ
はちょうど、理事会が開かれる朝
のこと、突然D兄から国際電話が
入り、私が相談したいと思ってい
ることをスカイプ会談で可能か？
という問合せでした。実はその日
は理事会で、FCCとしてどうし
ても必要となった伝道の根拠地と
して、本部の土地と建物が必要で
あることを話し合う予定であり、
しかもその件こそ私がD兄と話し
合いたいと思っていることなので、
理事会が終わってから夜にスカイ
プで話し合いましたと話して、
理事会に入りました。

そして夜のスカイプ会談では、
さらに驚くべき神様のお働きが米
国側でなされていたことを聞かさ
れ、ヴァンディ先生も私も鳥肌が
立つような恐れ慄きをもって終わ
りました。

詳細は誌面が足りませんことと、
公にするべき事ではありませんの
で、省かせて頂きますが、宣教は
主のお働き以外の何事であっても
いけないこと、ましてや人間の浅
はかな考えによる働きに警戒して
ゆくべきことを改めて確信して帰
国しました。

この年、主がどんな道を開きな
さるか、御心を求めておりますの
でお祈りに覚えて頂きたく宜しく
お願い致します。■



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2017年1月2日

9月から始まったクリスマス... フィリピンでのクリスマスは祝いモードが強く、日本のように伝道的要素はあまり見受けられません。今年も日本の救霊を覚えながらフィリピンでクリスマスを過ごしました。



今年、恭子が子どもたち向けにクリスマスのメッセージを頼まれていたこともあり、マニラの日本語教会のクリスマス祝会へ家族で参加しました。50人強ほどの参加者のうち三分の一ほどがフィリピン人の方、三分の一ほどが日本人の未信者のご家族、三分の一が教会員でした。未信者の方々は日本語教会の英会話教室にいられている駐在員の奥様方とそのご家族がメインで、そんな滞在歴の短めの方々のためにと、集会后、滞在の長い教会員がマニラのおすめスイーツを持ち寄ってくださって美味しく楽しい時間を持つことができました。



KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子*2017年1月6日

12月に始まった全国規模の医師ストライキは、1か月目に入りました。その影響で6床しかない救急外来に一晚で65人押し寄せた報告、ベッドを3人で分け合っている病棟もありますが、守られています。ストは国公立病院が中心のため、私立病院と各地のミッション病院が影響を受けています。テヌウェクに来ているほとんどの研修医の先生方は、ストに参加しないことを選択し、大変大きな違いをもたらしめています。また一番近所の公立病院がストに参加しないことを決定したため、前回とは負荷がかなり減っています。その公立病院は、先生、看護師を含め多くのテヌウェク出身のスタッフが働いています。今まで何度も、多くのスタッフが国公立病院の募集で流出するたびに、近視眼的に残念な思いをしたことですが、さすがに遠く長く見ておられる方の視野にはこんな状況の時の助けも含まれていたのかと感謝しています。

す。しかし、ストが長引くにつれ、先月からキャンセル・延期してきた通常の手術が出来ずお断りしている状態です。お祈りください。クリスマス直前に体調を崩し計画していたことのほとんどがキャンセルとなりました。やや持ち直したクリスマス当日の午後、脳外科のボランティア医師のご家族で、京都で1年間本格的に茶道を習っておられた方が、抹茶を下さいました。思いがけないクリスマスプレゼントでした。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年1月4日

12月に入り雨期が続く、農家は耕作で忙しくしています。ジェンボにも徐々に慣れてきています。ことは感謝です。クリスマス礼拝では礼拝で挨拶ができ、以前献げられていた服などを配ることができ感謝でした。コミュニティの人々に私たちの存在が自然に知られており、良き関係が築きあげられていくと感じています。12月14日にはクリニックのミーティングで公式

に挨拶することができました。また、その後は主任看護師にクリニックのツアーをしてもらい、クリニックの現状を知る機会が与えられました。病院の構造や、計画などいろいろな面で課題を見せていただき、今後どのようにしていくか考える時となりました。12月29日には教団医療部の代表と会い、クリニックの将来について話し合うこともできました。また、家中の環境が整っていないこともあり、常勤で働くことはできていませんが、クリニックでの働きも始まりました。

12月半ばに私たちが所属している教団のユース全国集会に招いていただきました。1週間のプログラムでしたが、私は最後の4日間参加しました。ジェンボからも近所の子たちを連れて、参加することができました。私にとってこの教団の若者の集會に参加するのは初めてで緊張しましたが、到着するスタッフたちが声をかけてくださり、暖かい歓迎を受けました。

宣教師館の建設も継続しており、現在は屋外の倉庫や庭などを整えています。家の中の家具を作っているジンバからの大工は、初めは良き働きを見せてくれましたが、徐々に働きが雑で仕事が進まなくなり、新しい方を探す必要が出てきました。電気配線はまだ終わっていません。隣人から配線をして電気を借りているような状態での生活が続いています。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2017年1月8日



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年1月10日

ジェンボでの初めての新年を迎え... 忙しい中にも感謝な時を過ごしました...

家の方は、未だに電気設備の設置ができず、大工工事も遅れています...

ローレンスは、輸血が受けられたようで感謝です...

主の御名を賛美します。お心のこもったクリスマスカードや年賀状...

聖誕節特集には、台南、台中ともに、たくさんの方々をお迎えすることができました...

台中教会では、初めての企画として親子クリスマスをもちました...

これまでではキャンドルサービスと子どもクリスマスという二つに分けて開催していた集会を一つにまとめました...

お祈りの課題

香港(鹿島)

教会総会の感謝と新しい出発のため

牧師夫妻の広州・深圳の出入りと働きのため

一人ひとりに与えられたお言葉に忠実に歩みますように

ザンビア(根廻)

ユースキャンプでの参加の感謝

クリニックでの働きのため

宣教師館の電源が整えられるように

ザンビア(富澤)

家の建ちあがり霊肉が守られますように

クリニック、地域への理解が深まりますように

ローレンスと家族のために

ケニア(眞田就子)

全国規模医師ストライキの解決のため

ストの影響を受けている各地のミッション病院と患者さん方の必要のため

フリリピン(豊田)

新校長アレックス先生のリーダーシップのため...

師ビザ取得のため

カンボジア(眞田緑乃)

KCCの働きの根拠地となる本部の土地と建物の必要と共に伝道者の霊的開眼を

2月末にD兄率いる支援チームによる伝道者リトリートに御霊の確かな御臨在を

GM宣教師館再建の御心の確認とともに眞田の健康、足の痺れの完全な改善を

ボリビア(三森)

ボリビアの教会の成長・発展のために

神学部の兄弟たちの学びが祝福されるように

私たちの霊肉の健康が守られ、巡回が祝されるように

台湾(平瀬)

クリスマスを超え、教会につながる方々が与えられるように

旧正月の出入りの多い時期、すべての事故やトラブルなどから守られるように

子どもたちの学びと将来の為に。(明里・学期末テスト。勝大・三学期、今春小学校卒業)

複雑化し、多様化する国際情勢の中、台湾の経済や治安、政治が安定するように

東京国際教会(眞田康毅・由理)

長期の空白期間を越えて組織された長老会が、ビジョンと一致をもって教会を導けるように

各集会の人数の増加に伴い近隣に小集会室を確保できるように

第二期の締め括りの奉仕の祝福とその後の方向性のため

会計報告12月分

宣教献金 三、〇〇九、一四四円 月平均 一、五九二、〇二二円

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

祈り——神さまの歯車

院長 ● 河村 從彦

「アヒトフェルの助言を愚かなものにしてください」

(第二サムエル一五・31)

祈りに疎い者が申し訳ないのですが、祈りは、積み上げたとかいう人間の側のことで、到底取まらきらない、むしろ神さまの歯車は動いたら止まらないという、神さまの側の話に重点があるような気がします。

ダビデはアブシャロムに追われて都落ちします。その時、アブシャロム軍に、神ってる一人の切れ者がいました(一六・23)。アヒトフェルです。ダビデに不利なように、巧みに情勢を把握します。

どう見ても絶望的な状況の中で、ダビデは初めて主に叫びました。「アヒトフェルの助言を愚かなものにしてください」。現実直視から出た真実な瞬間でした。

この祈りは聞かれました。アブシャロムは、アヒトフェルの進言に対してこう言います。「フシャイの言うことも聞いてみよう」(二七・5)。そして潮目が変わります。

この出来事のキモは、ダビデは敵軍の内状を知るよしもなく、神さまの歯車がどう動いているかが見えていないということです。「祈りは聞かれる」という言い

方が不信仰に思えるくらい、祈った瞬間「祈りは聞かれた」、そう受け止めるべきなのでしょう。見えるか見えないかはそれぞれで、見えないことのほうが多いのかもしれない。特に人が関わると状況は複雑になり、ダビデのように人は手出しが出来なくなります。神さまに委ねた生涯は不思議です。さまざまな要因、場合によっては人間の恣意も越えて、それらを逆手に取るように、神さまの歯車は静かに動いて行きます(一七・14)。一端動き始めるとだれも止めることができません。とても厳粛なことです。

祈った側からは見えていないのですが、直面している問題も、これからの人生や奉仕も、神さまの歯車はゆっくり動いている、そう信じる事ができる、そこに祈ることの意味があるのでしょうか。



樹木伐採工事が始まりました。

神学エッセー 牧会について ハラスメントとの関わり



田中 進

昨秋から神学生とともに再びBTCで学びをすることになった。ハラスメント防止なども扱う「牧会学特論」であるが、ともに学ぶのだと、自らを位置付けている。

「牧会」とは何か。広辞苑では「プロテスタント教会で、牧師が信者の魂の配慮をし、信仰と生活を導くこと」とあり、またこれは実践神学とも呼ばれ、「福音の真理を日常の営みの中で人間の心と生活に適用しようとする学問の分野である」(ウェスレアン神学事典)とある。

神学生と、牧会について学びながら、この意味をあらためて覚え、厳粛な思いを持つ。主に救われた一人の許された罪人に過ぎない者が、果たして牧会などできるのだろうかと自問自答する。また、つい数年前は一信徒だった彼らが、牧会者として教会に派遣される現実を思うとき、最も備えなければならぬものは何だろうかと考えながら学びを進めている。そういう意味で、私の牧会姿勢を問いた

だす恵みの時間である。

今回はハラスメント防止の教材として「教会と暴力」を学んでいる。これはバプテスト連盟宣教研究所が発行した牧師・神学生向けのテキストである。超教派のSH(セクシャルハラスメント)防止連絡会の情報交換によりこのテキストを知ることができた。私たちの教団とは教会政治の形態は異なるが、衆制・各個教会主義の教団であるが、監督制であっても、ほとんど違和感なく用いることができる内容である。二冊で構成されており、第一章では「力」と教会というテーマのもと、「力」の源泉と「人権」、「バプテスト教会の牧師と信徒」を扱い、二冊目の第二章、四章では、性暴力、子どもへの暴力、ハラスメント防止と被害からの回復という具体的な課題を取り上げている。

「牧師」という職務には必然的に「力」が伴うこと、そこにハラスメントが生まれる危険性があるということを押えておくことが肝要である。

私たちの教団でも昨年、「聖なる教会を目ざして」ハラスメントを題材としてというパンフレットを人権委員会が作成、まず教職者が各教区会で学んだ。その中の想定事例集には賛否両論があったと担当したブロックアドバイザーから報告を受けた。時間をかけ、ディスカッションを重ねることで、自分の従来の方針に気づきを与えられる必要があるであろう。

◆新しい年を迎えて

「父」

聴講生 伊藤安司

我が家では、週に1度、子どもが食事を作ってくれる日があります。

ある日、子どもから午後7時ごろ「もうすぐご飯できますよ。」という連絡を受け、私たちの帰りが8時になってしまいました。夕食はウインナーたっぷりのチャーハンです。「お腹減りましたよ。」と息子は言います。すぐに食卓を囲み、皆で手をつなぎ、お祈りし、「いただきます。」をした時です。すでに息子はご飯を食べていました。私は「お祈り中に食事をするのはどうなのか？」と息子に言いました。息子は「食材を減らすためにいろいろ回ってお腹が減ったんです。」と言葉を返し、急いでご飯を食べ、お風呂に向かいました。私は、レシートを目にしました。すると、同じお店のレシートが2枚ありました。しかし、購入時間は30分ほど違いがありました。

私は「天のお父さん。」と祈りました。天のお父さんならば、この状況を、「可愛いもんだ。」と思いき、楽しい食卓となっていたであらう。

しょう。ではなんで、私は腹を立ててしまったのかと考えた時、父としての「威厳」が損なわれた感じがしたために腹を立ててしまったのだと気付いたのです。

私はお風呂から出た息子をよび、ともに部屋に行きました。そこで「同じお店のレシートなのに30分のズレがあった。いろいろと買い物してくれたんだね。お腹が減ってたんだよね。でも私自身、祈っているのに食べられたからこそ父親としての威厳が損なわれたと思いい、腹が立ってしまっただけ。ごめんね。本当にごめん。」息子は涙しました。

この涙の後ろには、怒られるのではないかという心配からの解放、そして今まで真剣に親から謝られたことがないからこそ、それが涙と変わったのです。しかし、私がこのような対応ができたのも、BTCで天のお父さんのイメージが変えられているためです。愛なる父、恵みの父それらを学ぶことが今に生きています。

◆新しい年を迎えて

あなたはわたしを愛しますか

正規コース 大谷のぞみ

「あなたはこの人たち以上にわたしを愛しますか」



後援会の世話人には会長から委嘱状が送られます

いつも、尊いお祈りをいただきたいです。皆様のお祈りに支えられ、2年目の学びも、残すところ1か月となりました。

今年度1年間を振り返ってみますと、葛藤することが多かったことを思い出します。本当に色々な課題に直面し、自分のふがいなさに絶望したり、本当に神学生であっていいのだろうか？これが神様の御心なのだろうか？とよく揺れました。

そんな私に対して神様は「あなたはわたしを愛しますか？」と問われます。私の答えは、「私の愛は乏しいものです。あなたを愛していません。堂々と言えません。私も、あなたに愛に恵まれています。でも、あなたの愛に恵まれています。あなたの望まれる道を歩み続けたいです。」ということでした。

神様は「その気持ちだけで十分だよ。あとは、わたしが責任を持つから、あなたは、わたしに委ねて、従ってほしいんだよ。」と語って下さっています。

神様の憐れみ、恵みなしに、神学生として歩むことも、これから牧師として立てられていくこともできません。そもそも、クリスチャンとして歩むことさえできません。私の神学生生活は、神様の恵みと憐れみの一言に尽きます。

また、多くの方々のお祈りに支えられていることも、実感しております。これからも、主を仰ぎつつ進ませていただきたいと願っております。

◆新しい年を迎えて

御手の中で

短期コース 高木暁子

「この希望は、失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」(ローマ五・5)

元旦礼拝を終えて、1月1日の晩、3年振りに家族が揃い、共に祈り、共に主の恵みを分かち合う時が与えられました。すっかり大人になった子どもたちと将来につ

いて語り合う時、一人ひとりが自分の願いや希望だけでなく、ペーすに神様の御心ならば必ず最善に導かれるという信仰を確認しあうひと時となり感謝でした。

私は、唯々冒頭の聖言を新年聖句として与えられていることを紹介し、神様にすべてを、お委ねしてお祈りすることを約束しました。それぞれの課題は大きく重くのしかかって来るように感じることもあっても、お祈りする事を知っている私たちは、主がどの様に解決へと導いて下さるのかを信じて待ち望むことなのだなぁと、このBTCの日々の中で改めて気付かせて頂き感謝の意です。

色々な学科を受講する中で、昔との違いに驚いたりすることもありました。一貫して学んでいることは、「主に明け渡して、主に全く信頼している私かどうか、自力で頑張ろうとしていないか、聖霊の働きを待ち望んでいるか、どれほどか本気で祈っているか」なのです。

今日も、全国の諸教会の先生方、BTCを覚えて下さるお一人ひとりの貴いお祈りとサポートに支えられ励まされていることを心より感謝致します。

この年度の締めくくりに向かって私の心に繰り返し響く讚美歌は、「御手の中で」です。この讚美歌のように、主の御手の中で、もつと主の愛に満たされる者へと練らるることを願っています。今後ともお祈りに覚えて頂けたら幸いです。

私の神学生時代 虫けらをも顧みられる主 10期生 ●加藤喜右衛門



「恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしはあなたを助ける。主の御告げ。あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。」(イザヤ四一章14節)

教団を引退する前、後輩から、あなたは何期生かと問われ、十期生ですと答えると、「花の十期生ですか」と言われたことを思い出します。男子10名の期で、各々、生い立ちの違う若者たちでしたので、寮の雰囲気が変わったともいわれました。私たち同期生一同にとっても、最も良い、花の青年時代であったと言えましょうか。

他の方々は花として、私自身は冒頭の聖言のように、花々の中の虫けらの存在でありました。異教の民の中から救われて、2年数か月で神学院に入学し、聖書知識、能力、経済力も零の状態、幾回、恥ずかしい思いを経験したことでしょうか(今も同様)。

岩城幸策教授の東北弁の発音のことを、クラスの中で、ある神学生が質問した時、先生は「だから私は献身は嫌だと、主に言ったの

だ」と答えられたことを思い出します。私にも発音は恥ずかしさの一つであり、他にも数多くありました。しかし恥を恐れていたなら神学院での学びも、その後の小さな働きも、できずに終わったことでしょう。

へブル一・16、「神は彼らの神と呼ばれる事を恥となさいます。神とされる事は、虫けらの私を退けず、その時々、私の恥をも一緒に負われつつ、必要に応じ、私を助けて、守り、学院での学びの時もその後の60年の小さな働きにも共に歩んで下さいました。」

冒頭の聖言と共に、「見よ。わたしはあなたを鋭い、新しいもろ刃の打殺機とする。あなたは山々を踏みつけて粉々に砕く。丘をもみ殻のようにする。」(イザヤ四一・15)

主のこれらの聖言は、私には確かでした。なんと真実と力に富んだ主であられたことか。虫けらであつても、主と聖言を信じて頼り行く者の恐れを除き、「わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手であなたを守る」(イザヤ四一・10)

主は虫けらの私を、直接、強め、大きく数多く助けて下さいました。助け手としては学院の諸先生方、寮生の方、諸師、聖徒たち、働き場を異にされている諸氏をも送って下さいました(マタイ二五・40)。虫けらをも強めなさる主に、世々限りなく栄光がありますように。

同窓生の近況

38期生
島田教会 ● 浜田真弓



「わたしの義の右の手で、あなたを守る。」(イザヤ四一・10)

「伝道者が造られるには20年、30年の鍛錬が必要。」結婚式の祝辞に途方に暮れる思いがしましたが、今の私はそれでも到底たりないと痛感しています。BTC卒業後、金谷教会で2年、伝道者の厳しさと楽しさを。大阪伝法教会に14年、伝道者の誇りとその責務の大きさを。現在の島田教会で11年、「祈り」による勝利を学んできました。どこに行っても温かな先生方と愛兄弟方の愛と篤いお祈りを頂き、また主人の寛容と4人の子どもの笑顔がなかったらこま

で乗り越えて来ることはできませんでした。子どもの病、いじめ、転任後に伴う試験など主はそれぞれすべてを益と変えてくださいました。苦難の中で主の十字架の愛の深さを学び、伝道者として少しずつ作ってくださる主の憐みに感謝します。終わるまで主の前に聖くあること、救霊のために生きること——この聖と宣のスピリットをもってインマヌエルのビジョンから外れない様願っております。

聴く、話すことの大切さ

図書館 三森春生

前回、このコラムの執筆を依頼されたとき、伝道者、牧師の働きに就くのにコミュニケーションの能力が不可欠だとして、リテラル(読む・書くこと)について書いた。今回はもう一つのオーラル(聴く・話すこと)について神学院とのかわり考えてみた。

「きく」という言葉に聞でなくあえて聴を使った。耳はいつでも開いているので、外界の音はすべて聞こえるが、言葉やメッセージは意識して聴こうとしないと受け止めることができない。こんなこともBTCでの生活の中で初めて知ることができたと思う。聖書から神のみことばを聴くには、外界の雑音を分別もせず耳の穴に入るだけで聞かなくてはならない。を傾け心で聴かねばならない。

神学院スタッフ…恵みの想起

学苑だより



● 厳寒の冬。卒業式までの短い時間が静かに流れて行きます。卒業式は3月10日(金)午後です。

● キャンパスの樹木伐採工事が始まりました。今回は専門業者に注して本格的に手を入れます。1か月ほどかかる予定です。

● 後援会からお願い 各教会で信徒のどなたかお一人に「世話人」になっていただきたくよろしくお願ひ致します。

● 世話人の方には会長より、写真のような委嘱状が送られます。

● 後援会は信徒運動です。教団が信徒と共に歩むこれからの時代を模索している時期、信徒の皆さまが後援会を立ち上げてくださることは神さまからの恵みです。

● 年會会期中、3月15日(水)午後8〜9時、後援会設立総会を行います。お祈りください。本誌記事もご参照ください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。12月の会計報告をさせていただきます。

12月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥920,825
教会団体による「神学院献金」
¥424,500
合計 ¥1,345,525

その他の献金(一時・特別)
¥140,251

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「神は、いつさいのものをキリストの足の下に従わせ、いつさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いつさいのものをいつさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」

(エペソ一・22-23)

1月末の大切な教会総会を越えて各教会で良き教会年度の区切りと新たな進発がなされたことと存じます。新教会年度のすべての計画・方針・活動が導かれて参りますように、そして主の大いなる御業と栄光が拝される営みとなりますようお祈り申し上げます。

この時期は、殊の外、寒さと雪との戦いが厳しくなっている北国・雪国の地域の諸教会を覚えて、主のみ助けをお祈りしましょう。

■本部

〈会議〉

《第72次年会 準備祈祷会開催》

6日(月) 午後2時-3時半

(OCC411会議室)

6日(月) 7日(火)

拡大運営委員会(年会準備)

13日(月) 14日(火)

神学委員会・神学部会

21日(火) 会計監査

■総務局

〈第72次年会の関連のお願い〉

年会は3月15日(水) 午後1時(必着) 16日(木) 午後3時までの開催となります。宿泊は本部で一括して手配しますが、航空券等は各自でお早めにご手配ください。本部で行われている最終的な準備のため、また先生方やご家族、信徒方の出入りのためにお祈りください。

▽近年、教会土地建物「登記簿謄本」の送付にご協力いただいておりますことを感謝申し上げます。会堂建設等で提出後に変更のありました教会は、速やかに最新のものの提出をお願いします。本部で、被包括法人の最新の状態を把握しておく必要がありますのでご協力をお願いします。

▽教団ドメインのメールアドレス(@immanuel.or.jp & @igm21.com) を使用の先生方で、新規登録や変更・廃止、メーリングリストの希望などがありましたら、本部総務局の佐藤信行師までご連絡ください。

▽世界宣教局
▽葛田康毅・由理宣教師は、東京国際基督教教会で現在奉仕中ですが、夏以降の奉仕の形態について主の導きを求めておられます。主が最善の道を用意してくださるようにお祈りください。

▽三森邦夫・加寿子宣教師は、関東新年聖会において、証しの奉仕を果たされましたが、年会での引退後も、必要に応じて巡回報告の奉仕に従事されますので、直接三森宣教師にお問い合わせください。

▽世界宣教局と教育局共催のフィリピン宣教訪問団の参加者募集中です。案内が教会にすでに送られています。案内には5万円までの支援補助があります。団長は、王子教会の田辺寿雄師が団長で、第一次申し込みの締め切りは、4月までです。申し込み、問い合わせは、訪問団担当の葛田敬子師までお願いいたします。

〈IWF関係〉

▽ホリー・ミュールハイゼン宣教師は、クリスマスをも国で過ごし、1月中旬、日本に戻りました。IWFの各宣教師方が今年各地の教会で貴く用いられるようにお祈りくださるとともに積極的にお招きください。

▽宣教師を招く際、経済的に困難があり、IWFの支援を希望される教会は、教会でもって計画を立てて、5月9日に行われるIWF理事会に向けて、担当の梅田登志枝師まで、申請書を提出ください。

〈JHA関係〉

12日(日) 遠州聖会
27日(月) 関東JHA評議員会

〈JEA関係〉

▽植木英次師は、2月20日から22日にバンコクで開催されるアジア福音同盟実行委員会出席のため、渡航されます。

■教育局

〈とにキャン関係〉

▽スタッフトレーニングキャンプ

日程・3月20日(月) 21日(火)

会場・聖宣神学院

発行人 藤本 満 編集者 北田直人

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

◇第10回全国中高生とにキャン
日程・8月8日(火) 11日(金)
会場・聖山高原キャンプ場
講師・大島重徳師(KGK総主事)
テーマ・「変わりたい Revolution」

■聖宣神学院

▽神学院祈り会 2月7日(火) 午後6時-7時、本部会議室でお勧めは田中進先生。
▽入学審査は3月6日(月)、願書提出期限は2月20日(月) 必着です。受験を考えておられる方は、間違いないように手続きを行ってください。

▽卒業式 3月10日(金) 午後1時30分から。2名が卒業予定です。

▽BTC後援会からのお知らせ
各教会で信徒のどなたかお一人に「世話人」になっていただきたく、会長から依頼状が教会宛送付されました。ご協力をお願いします。

▽BTC後援会設立総会のご案内
年会期間中、3月15日(水) 午後9時、年会会場で行います。本誌掲載記事もあわせてご覧ください。

■出版事業部
▽「イムマヌエル讃美歌150」
発売予定 2017年3月
①予約特価1000円(2月21日まで)
②発売特価1200円(2月22日から発売後2か月)

③教会備え付け用割引(詳細はすでに送付された案内書をご覧ください)

消息報告



▽12月25日、和歌山教会の久保光彦・せきな師ご夫妻のご家庭に、第2子次女が誕生されました。お名前は「留依(るい)」さん(ヨエル二・28、箴言一六・20)です。祝福をお祈りしましょう。

年会スケジュールご案内

日程・3月15日(水) 16日(木)
会場・山崎製パン総合クリエイションセンター(JR市川駅から徒歩約10分)

●3月15日(水)

- 12時 受付開始
- 13時 必着
- 14時 聖会I
献児式、卒業生証し
- 15時半 研修会
・ハラスメント
・カルト
・書観

- 19時 議事会I
- 20時 神学院後援会設立総会
- 3月16日(木)
- 9時半 議事会II
- 13時 聖会II
- 14時 教職按手式
任命式

教区主事会議
*年会(教区主事会議を除く)はすべてオープンですので、信徒の方もぜひご参加ください。
教報PDFパスワードII3947

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107133609